

学校番号 128 江戸川区立南葛西第三小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差																					
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年													
年度		国語		算数		合計		年度		国語		算数		国語		算数									
令和12年度の目標								令和12年度の目標																	
令和11年度の目標								令和11年度の目標																	
令和10年度の目標								令和10年度の目標																	
令和9年度の目標								令和9年度の目標																	
令和8年度の目標		-3		-6		-8		令和8年度の目標		-1		-2		-4		-5		0		-1		-1		-1	
令和7年度の結果		-7		-12		-19		令和7年度の結果		-2.1		-4.3		-8.2		-11.9		-0.5		-3.5		-1.8		-3.9	
令和6年度の結果		+2		+3		+5		令和6年度の結果		-3.5		-7.8		-4.3		-6.1		-4.6		-8.8		+4.1		+5.6	
令和5年度の結果		-9		-7		-16		令和5年度の結果																	
年度		令和7年度						令和8年度																	
内容		成果と課題						目標		目標達成に向けた取組															
学校全体		【成果】 ○意欲的に学習しているというアンケート結果が80%を超えた。 ○全校算数科において、習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 ○「江戸川区学力調査」のC・D層の割合が減少した。 【課題】 ○「全国学力・学習状況調査」「江戸川区学力調査」全ての数値でマイナスとなる結果となった。						○江戸川区学力調査の結果A・B層の割合が昨年度より向上すること ○江戸川っ子Studyweek!の全児童の目標達成率をあげる。 ○全国学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「国語、算数の授業の内容はよく分かりますか」への肯定的な回答が80%以上を達成する。		○「江戸川区国語授業スタンダード算数授業スタンダード」を活用して、授業改善を推進する。 ○教材研究を行い、支援の手立てを明確化して授業を行う。 ○年間を通して計画的に放課後学習教室を行う。 ○校内OJTを活用し、専門性の高い教員の技術や知識を継承していく。															
第1学年		【成果】 ○学習意欲が高く、落ち着いて学習に励んでいる。 ○算数科において、習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○基礎・基本的な学習を身に付け、既習事項の理解の定着を図る。						○集中して学習活動に取り組めるようにする。 ○既習漢字を書くことができるようにする。		○各学期に1週間ずつ計3回の江戸川っ子Studyweek！を実施し、（学年×10+10）分間の過程学習習慣が身に付くよう協力を呼び掛ける。 ○ミライシードやドリルを活用した学習を行い、漢字と計算技能の定着を図る。															
第2学年		【成果】 ○習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○基礎・基本的な学習を身に着け、既習事項を理解し、活用する。						○最後まで集中して学習活動に取り組めるようにする。 ○既習漢字を書くことができるようにする。		○各学期に1週間ずつ計3回の江戸川っ子Studyweek！を実施し、（学年×10+10）分間の過程学習習慣が身につくよう協力を呼び掛ける。 ○ミライシードやドリルを活用した学習を行い、漢字と計算技能の定着を図る。															
第3学年		【成果】 ○習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○「江戸川区学力調査」で全ての数値でマイナスとなる結果となった。しかし、差を縮めることができた。						○個人カルテをもとに自身の苦手な単元や内容を認知できるようにし、苦手解消のためにドリルパークで取り組むべき場所を明確に示すことで、自主的な学習を進められるようにする。		○各学期に1週間ずつ計3回の江戸川っ子Studyweek！を実施し、（学年×10+10）分間の家庭学習習慣が身につくよう協力を呼び掛ける。 ○ミライシードやドリルを活用した学習を行い、漢字と計算技能の定着を図る。															
第4学年		【成果】 ○習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○「江戸川区学力調査」で全ての数値でマイナスとなる結果となった。						○個人カルテをもとに自身の苦手な単元や内容を認知できるようにし、苦手解消のためにドリルパークで取り組むべき場所を明確に示すことで、自主的な学習を進められるようにする。		○区学力調査の結果を受けて作成した個人カルテを活用し、児童の苦手を保護者と共有し、その解消に向けた課題への取組方に協力を呼びかける。 ○年間11回の放課後学習教室C層上位および、C・D層の児童を対象にしたEDOSクでの学習を通して、個に応じた指導を行うことで、算数の既習事項の定着を図る。															
第5学年		【成果】 ○習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○「江戸川区学力調査」で全ての数値でマイナスとなる結果となった。しかし、差を縮めることができた。						○個人カルテをもとに自身の苦手な単元や内容を認知できるようにし、苦手解消のためにドリルパークで取り組むべき場所を明確に示すことで、自主的な学習を進められるようにする。		○区学力調査の結果を受けて作成した個人カルテを活用し、児童の苦手を保護者と共有し、その解消に向けた課題への取組方に協力を呼びかける。○よむYOMUワークを活用し、年間30回活用し、児童の読解力や語彙力の向上を図る。 ○年間11回の放課後学習教室C層上位および、C・D層の児童を対象にしたEDOSクでの学習を通して、個に応じた指導を行うことで、算数の既習事項の定着を図る。															
第6学年		【成果】 ○習熟度別指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 【課題】 ○「全国学力・学習状況調査」「江戸川区学力調査」で全ての数値でマイナスとなる結果となった。						○全国学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「国語、算数の勉強は好きですか」への肯定的な回答が80%以上を達成する。 ○個人カルテをもとに自身の苦手な単元や内容を認知できるようにし、苦手解消のためにドリルパークで取り組むべき場所を明確に示すことで、自主的な学習を進められるようにする。		○区学力調査の結果を受けて作成した個人カルテを活用し、児童の苦手を保護者と共有し、その解消に向けた課題への取組方に協力を呼びかける。○よむYOMUワークを活用し、年間30回活用し、児童の読解力や語彙力の向上を図る。 ○年間11回の放課後学習教室C層上位および、C・D層の児童を対象にしたEDOSクでの学習を通して、個に応じた指導を行うことで、算数の既習事項の定着を図る。															